



2022年3月18日

住友商事株式会社
株式会社総合車両製作所

フィリピン南北通勤鉄道の延伸事業向け鉄道車両 304 両受注について

住友商事株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役 社長執行役員 CEO：兵頭誠之、以下「住友商事」）と株式会社総合車両製作所（本社：神奈川県横浜市、代表取締役社長：西山隆雄、以下「J-TREC」）は、フィリピン共和国運輸省（以下「DOTr」）より、マニラ首都圏と周辺都市を南北に結ぶ南北通勤鉄道の延伸事業向け鉄道車両納入プロジェクト（304 両、契約金額約 725 億円）（以下「本プロジェクト」）を受注し、本日契約を締結しました。

急速な経済成長と人口増加が続くマニラ首都圏では、人口集中による交通渋滞や大気汚染が年々深刻化しており、大量人員輸送が可能でエネルギー効率が高い鉄道輸送が注目されています。フィリピン共和国政府は「Build Build Build（ビルド・ビルド・ビルド）」と称する大規模なインフラ整備計画を推進しており、南北通勤鉄道事業は中核事業として位置づけられています。建設が進むフェーズ 1 のブラカン州マロロス～マニラ市ツツバン区間（約 40 キロメートル）に加え、北方はパンパンガ州クラーク（クラーク国際空港）からマロロス、南方はツツバンからラグナ州カランバの延伸区間（総計約 110 キロメートル）が完工すると全線約 150 キロメートルの路線となります。マニラ首都圏の交通ネットワークを拡充し、自動車から鉄道への輸送シフトを実現することで、交通渋滞と大気汚染の大幅な改善が期待できます。

本プロジェクトは、独立行政法人国際協力機構とフィリピン共和国政府との有償資金協力に基づき計画された日本の政府開発援助事業です。クラークからカランバまでの全線を走る鉄道車両 304 両（8 両×38 編成）を設計・製造し、2028 年頃までに DOTr への全車両の引き渡しを予定しています。住友商事と J-TREC は、2019 年 7 月に南北通勤鉄道フェーズ 1 向け鉄道車両納入プロジェクト、2020 年 12 月にマニラ地下鉄向け鉄道車両納入プロジェクトを受注しています。

住友商事は、これまでにアジア、北米を中心に多くの鉄道建設、車両輸出を手掛けてきました。特にマニラ首都圏では、複数の既存路線（LRT1 号線、LRT2 号線、MRT3 号線）で受注・履行実績があり、LRT1 号線の運営や MRT3 号線のリハビリ・メンテナンスにも参画しています。交通輸送インフラ事業での豊富な経験を生かし、本プロジェクトの着実かつスムーズな推進を図りながら、引き続き、フィリピン共和国の持続的成長や脱炭素社会の実現に貢献していきます。

J-TREC は、特に日本国内のステンレス通勤車両製造数でトップクラスを誇る鉄道車両メーカーです。通勤車両以外にも新幹線車両、特急車両、脱炭素社会の実現に向け水素を用いる燃料電池車両を含めたハイブリッド車両など、多岐に渡る製品を設計・製造してきました。近年では、次世代ステンレス車両「sustina」(注)を積極展開し、地域インフラの発展に寄与しています。東南アジアでは、2016 年にタイ王国のバンコク都市鉄道パープルライン向け車両を納入しました。本プロジェクトにおいても「sustina」を提供し、マニラ首都圏の交通インフラ発展に貢献していきます。

(注) 「sustina」

省エネルギー性、安全性、保守性を向上させ、輸送の安定性に資する共通プラットフォームを活用して J-TREC が設計・製造する次世代ステンレス車両。日本の首都圏の主要路線を中心に多くの鉄道路線に採用。

<参考資料>

■本プロジェクト概要

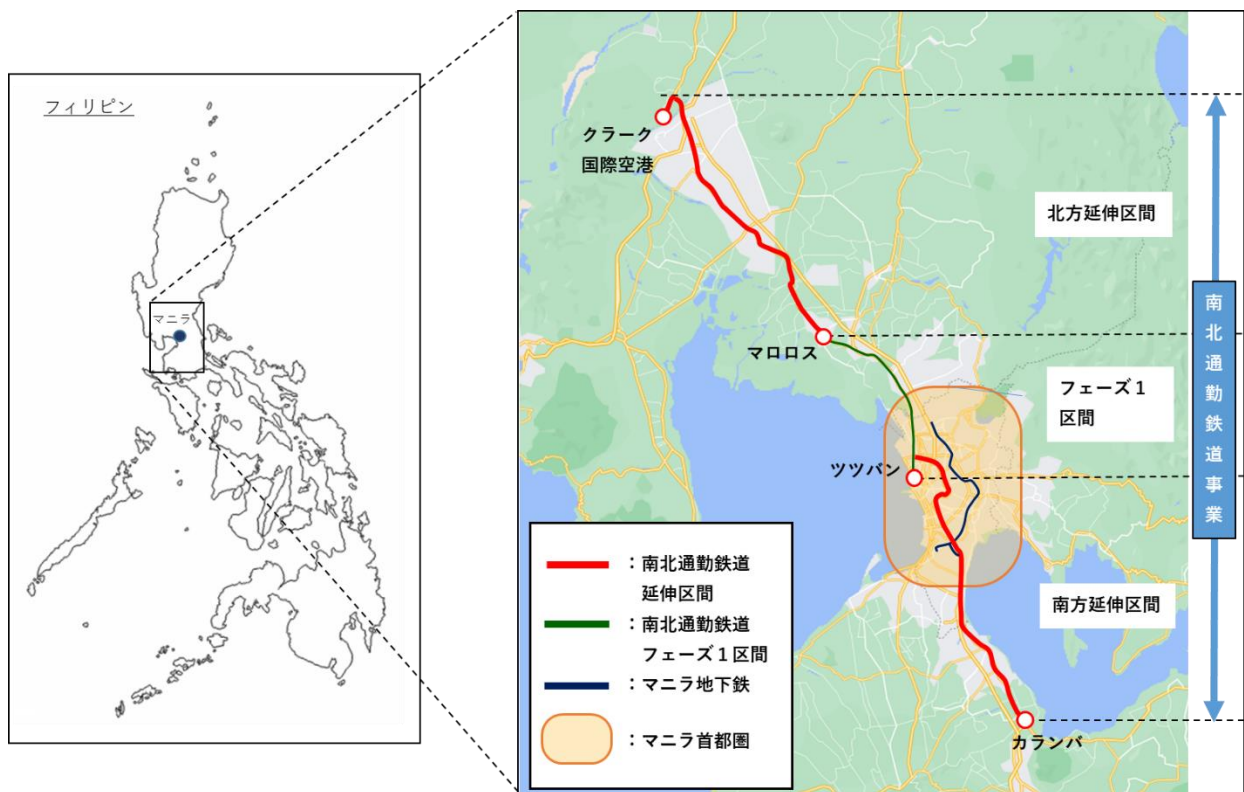
案件名 : フィリピン南北通勤鉄道延伸事業車両納入パッケージ CPNS-02

顧客 : フィリピン共和国運輸省 (DOTr)

契約内容: 鉄道車両 304 両 (8 両×38 編成) の設計、製造、試験、製品保証、予備品・特殊工具納品、
従業員トレーニングなど

全体工期: 78 カ月

■路線図



■車両完成イメージ

